第11講

社会科学系（4）

個人と社会の対立

チャプター1

資料読解

生徒メモ欄

1　ぼくはぼく自身の内部において政治と文学とを截然と区別するやうにつとめてきた。その十年あまりのあひだ，かうしたぼくの心をつねに領してゐたひとつのことばがある。「なんぢらのうちたれか，百匹の羊をもたんに，もしその一匹を失はば，九十九匹を野におき，失せたるものを見いだすまではたづねざらんや。」（ルカ伝第十五章）はじめてこのイエスのことばにぶつかったとき，ぼくはその比喩の意味を正当に解釈しえずして，しかもその深さを直観した。もちろん正統派の解釈は蕩児の帰宅と同様に，一度も罪を犯したことのないものよりも罪を犯してふたたび神のもとにもどつてきたものに，より大きな愛情をもつて対するクリスト者の態度を説いたものとしてゐる。たしかにルカ伝第十五章はなほそのあとにかう綴つてゐる――「つひに見いださば，喜びてこれをおのが肩にかけ，家に帰りてその友と隣人とを呼びあつめていはん，『われとともに喜べ，失せたるわが羊を見いだせり』われなんぢらに告ぐ，かくのごとく，悔い改むるひとりの罪人のためには，悔い改めの必要なき九十九人の正しきものにもまさりて天に喜びあるべし。」

2　が，天の存在を信じることのできぬぼくはこの比喩をぼくなりに現代ふうに解釈してゐたのである。このことばこそ政治と文学との差異をおそらく人類最初に感取した精神のそれであると，ぼくはさうおもひこんでしまったのだ。かれは政治の意図が「九十九人の正しきもの」のうへにあることを知つてゐたのに相違ない。かれはそこに政治の力を信ずるとともにその限界をも見てゐた。なぜならかれの眼は執拗に「ひとりの罪人」のうへに注がれてゐたからにほか

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ならぬ。九十九匹を救へても，残りの一匹においてその無力を暴露するならば，政治とはいったいなにものであるか――イエスはさう反問してゐる。かれの比喩をとほして，ぼくはぼく自身のおもひのどこにあるか，やうやくにしてその所在をたしかめえたのである。ぼくもまた「九十九匹を野におき，失せたるもの」にかかづらはざるをえない人間のひとりである。もし文学も――いや，文学にしてなほこの失せたる一匹を無視するとしたならば，その一匹はいつたいなにによつて救はれようか。

3　善き政治はおのれの限界を意識して，失せたる一匹の救ひを文学に期待する。が，悪しき政治は文学を動員しておのれにつかへしめ，文学者にもまた一匹の無視を強要する。しかもこの犠牲は大多数と進歩との名分のもとにおこなはれるのである。くりかへしていふが，ぼくは文学の名において政治の罪悪を摘発しようとするものではない。ぼくは政治の限界を承知のうへでその意図をみとめる。現実が政治を必要としてゐるのである。が，それはあくまで必要とする範囲内で必要としてゐるにすぎない。革命を意図する政治はそのかぎりにおいて正しい。また国民を戦争にかりやる政治も，ときにそのかぎりにおいて正しい。しかし善き政治であれ悪しき政治であれ，それが政治である以上，そこにはかならず失せたる一匹が残存する。文学者たるものはおのれ自身のうちにこの一匹の失意と疑惑と苦痛と迷ひとを体感してゐなければならない。

4　この一匹の救ひにかれは一切か無かを賭けてゐるのである。なぜなら政治の見のがした一匹を救ひとることができたならば，かれはすべてを救ふことができるのである。ここに「ひとりの罪人」はかれにとつてたんなるひとりではない。かれはこのひとりをとほして全人間をみつめてゐる。善き文学と悪しき文学との別は，この一匹をどこに見いだすかによつてきまるのである。一流の文学はつねにそれを九十九匹のそとに見てきた。が，二流の文学はこの一匹をたづねて九十九匹のあひだをうろついてゐる。なるほど政治の頽廃期においては，その悪しき政治によって救はれるのは十匹か二十匹の少数にすぎない。それゆゑに迷へる最後の一匹もまた残余の八十匹か九十匹のうちにまぎれてゐる。ひとびとは悪しき政治に見すてられた九十匹に目くらみ，真に迷へる一匹の所在を見うしなふ。これをよく識別しうるものはすぐれた精神のみである。なぜなら，かれは自分自身のうちにその一匹の所在を感じてゐるがゆゑに，こ

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

れを他のもののうちに見うしなふはずがない。

［中略］

5 ぼくの知りうるかぎり，ぼくたちの文学の薄弱さは，失せたる一匹を自己のうちの最後のぎりぎりのところで見てゐなかった――いや，そこまで純粋におひこまれることを知らなかつた国民の悲しさであつた。しかもぼくたちの作家のひとりびとりはそれぞれ自己の最後の地点でたたかつてゐたのである。その意味において近代日本の文学は世界のどこに出しても恥しくない一流の作家の手によつてなつた。が，かれらの下降しえた自己のうちの最後の地点は，彼等に関するかぎり最後のものでありながら，なほよく人間性の底をついてはゐなかつた。なぜであるか――いふまでもない，悪しき政治がそれ自身の負ふべき負荷を文学に負はせてゐたからである。政治が十匹の責任しか負ひえぬとすれば，文学は残りの九十匹を背負ひこまねばならず，しかもぼくたちの先達はこれを最後の一匹としてあつかはざるをえなかつた。その一匹が不純なものたらざるをえず，この意味においてぼくたちの近代はそのほとんどことごとくを抹殺しても惜しくはない五流の文学しかもちえなかったのである。

［中略］

6 ぼくがいままで述べてきた文学と政治との対立の底には，じつは個人と社会との対立がひそんでゐるのである。ここでもひとびとはものごとを一元的に考へたがり，個人の側にか社会の側にか軍配をあげようとこころみてきた。そして現代の風潮は，その左翼と右翼とのいづれを問はず，社会の名において個人を抹殺しようともくろんでゐる。ゆゑに個人の名において社会に抗議するものは，反動か時代錯誤のレッテルをはられる。ここにぼくの反時代的考察がなりたつ。が，それは反時代的，反語的ではあつても，けつして反動ではありえない。もし反動といふことばのそのやうな使ひかたが許されるならば，むしろそれは反対の立場にかぶせられるべきものであらう。ぼくは相手を否定せんと企ててゐるのではなく，ただおのれの扼殺される危険を感じてゐるのにすぎない。

7 失せたる一匹の無視せられることはなにも現代にかぎったことではない。が，それはつねにやむをえざる悪としてみとめられてきたのであつて，今日のごとく大義名分をもつてその抹殺を正当化した時代は他になかった。それは一時の便法ではなく，永遠の真理として肯定されようとしてゐ

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

る。いや，現代はその一匹の失はれることすらみとめようとはしない。社会はその框(かまち)のそとに一匹の残余すらもつはずのないものとして規定せられる。個人は社会的なものをとほして以外に，それ自身の価値を，それ自身の世界をもつことを許されない。社会は個人をその残余としてみとめず，矛盾対立するものとして拒否するのである。だが，矛盾対立するものはなぜ存在してはいけないのか。いや，そのことよりも，個人はこのみづからの危機に際会してなぜ抗議しないのか。

［中略］

8　ひとびとはあらゆる個人的価値の底にエゴイズムを見，それゆゑに個人は社会のまへに羞恥する。が，現実を見るがいい――社会正義といふ観念の流行にもかかはらず，現実は醜悪な自我の赤裸々な闘争の場となつてゐるではないか，いや，なほ悪いことに，あらゆる社会正義の裏口からエゴイズムがそつとひとしれずしのびこんでゐる。当然である――いかに抑圧しようとしてもけつして消滅しきれぬ自我であり，それゆゑに大通りの通行禁止にあつてみれば，裏口にまはるよりほかに手はなかつたといふわけである。ぼくがもつともおそれるのはそのことにほかならない。社会正義の名によりひとびとが蛇蝎(だかつ)のごとく忌み恨んだエゴイズムとは，かくして社会正義それ自身の専横のもちきたらした当然の帰結にほかならぬのである。現代のオプティミズムは政治意識と社会意識とを強調してゐるが――それはそのかぎりにおいて正当な主張であるとしても――このさいひとびとの脳裡にある図式は，いささかの私心も野望もなき個人といふものの集合のうへに成りたつてゐる。たしかにかれらの世界観は知性の科学によつて空想的ユートピアに堕することをまぬかれてはゐよう。が，個人の秘密を看過したことにおいて，個人が小宇宙であるといふ古めかしい箴言を一片の反故として葬りさつたことにおいて，さらに社会意識といふものによつて個人を完全に包摂しうると考へたことにおいて，まさに空想的，観念的なユートピアの域をいでぬものであらう。

［中略］

9　ふたたび誤解をさけるためにことわつておくが，ぼくは文学者が政治意識をもたなくてはならぬとかなんとか，さういふ場でものをいつてゐるのではない。政治と文化との一致，社会と個人との融合といふことがぼくたちの理想であること――そのことはあたかも水を得るために水素と酸

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

素との化合を必要とするといふことほど,すでに懐疑の余地のない厳然たる事実である。問題はその方法である。その理想を招来するための政治や文学の在りかた,社会や個人の在りかたが問題なのである。ぼくは両者の完全な一致を夢見るがゆゑに,その截然たる区別を主張する。乖離でもなく,相互否定でもない。両者がそれぞれ他の存在と方法とを是認し尊重してのうへで,それぞれの場にゐることをねがふのである。それをぼくはただ文学者として,文学の立場からいつたにすぎず,また今日のさかんな政治季節を考慮にいれていつたのにすぎない。

[中略]

⑩　政治のその目的達成をまへにして──そしてぼくはそれがますます九十九匹のためにその善意を働かさんことを祈つてやまず,ぼくの日常生活においてもその夢をわすれたくないものであるが──それがさうであればあるほど,ぼくたちは見うしなはれたる一匹のゆくへをたづねて歩かねばならぬであらう。いや,その一匹はどこにでもゐる──永遠に支配されることしか知らぬ民衆がそれである。さらにもつと身近に──あらゆる人間の心のうちに。そしてみづからがその一匹であり,みづからのうちにその一匹を所有するもののみが,文学者の名にあたひするのである。

福田恒存「一匹と九十九匹と─ひとつの反時代的考察」『福田恒存全集』第一巻(文藝春秋,一九八七年)。試験問題として使用するために,文章を一部省略・変更し、漢字を新字体に改めた。

(2021年度　慶應義塾大学　法学部)

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター2

問題およびヒント

問題を見てみよう

次の文章は，評論家・福田恒存が一九四七年に発表した「一匹と九十九匹と」と題する作品からの抜粋である。著者の議論を400字程度に要約した上で，個人と社会の緊張と対立について，600字程度であなたの考えを具体的に論じなさい。

解答案をつくってみよう

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（　　　　　字）

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案が完成したら、以下の表を用いて自己評価をしてみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

項目	評価観点	評価
設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見（主張）	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター3

答案例①

筆者は迷える子羊の譬え話を引用しながら、政治と文学との差異だと解釈している。政治の力を信じ、それを「99人の正しきもの」のうえにおく一方で、そこから取りこぼされた「1人の罪びと」に対して無力であるという政治の限界に対しての救いが文学にあると主張する。そのため文学者は自身のうちに迷える羊の失意と疑惑と苦痛とを体感する必要があるとし、その視点から全人類を見つめることを求めている。このように対立関係にある文学と政治の底には個人と社会の対立が潜んでいると考え、講演当時の風潮について、社会の名において個人を抹殺しようとしていると言う。このように失せたる1匹の抹殺を、大義名分をもって正当化した時代は他になく、そのことが一時の便法ではなく永遠の真理として肯定されようとしていることに警鐘を鳴らしている。筆者は政治と文化との一致、社会と個人との融合を理想とするがゆえに、それぞれが明確な区別を必要とすると主張している。

社会は個人の集合で成立しており、構成員である個人は他者を侵さない範囲で自由を持ち、自らも侵されないことを保証されている。その相互不可侵な自由を謳歌しながら行う経済活動や市民活動が社会だと考える。

消費は代表的な自由行動だが、クレジットカードやポイントカードの利用によってビッグデータとして収集され、個人情報として管理されつつある。さらにマイナンバーカード

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

に銀行口座が紐づけられ、健康保険証やポイントカードとしての利用が可能であることは、政府が預貯金や消費活動、健康状況まで把握できるということだ。このことは社会による過剰な個人管理だとは考えられないか。納税管理などの利便性が高まることに異存はないが、1枚のカードによって個人情報を管理されることへの懸念も消えない。システム故障による混乱や情報漏洩の危険性、あるいは政治状況の変化により個人活動の制約が行われる可能性はないのだろうか。購買書籍などから判断した思想狩りが行われない保証はあるのだろうか。特定秘密保護法が施行され共謀罪が成立、施行されている現在、恣意的に個人を弾圧することは不可能ではなくなっているように思う。

　個人はそれぞれ異なるからこそ個人である。社会運営のためには個人を管理せざるを得ないが、利便性だけを求めると特異性のある個個人が人の集合体に変じてしまうのではないだろうか。社会は個人の管理だけを目的にしてはならないと考える。

（1031字）

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案例①を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見(主張)	設問と意見との関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター4

答案例②

　イエスは、百匹の羊のうち一匹を失った時、一匹を探して見つけることを喜びとすることを説いているが、これは政治と文学の関係に置き換えることができる。政治は九十九匹を救おうとし、文学は政治が救えなかった一匹を救うものである。しかし、近代日本の文学は一匹に満足せず、悪しき政治が救えなかった全てを救おうとして、結局一匹すらも背負えていないものであった。このような文学と政治が相対する底には個人と社会の対立が存在する。社会正義の観念が流行しても個人のエゴイズムは抑圧し得ないわけで、社会が個人を包摂しようとするのは間違いだ。一方で個人が正義をかざして社会を糾弾することも違和感がある。互いに矛盾対立する存在を認めたうえではっきり区別された存在であるべきだ。そして、社会に居ると思っている自らが迷える個になり得ることを忘れずにいることが肝要で、文学者は自身が救われない個人であると自覚しながらいることが重要だ。

　筆者が論じる社会と個人の緊張関係は社会が個人を抑圧し得る世相を反映しており、現代にそのまま置き換えることはできない。現代ではソーシャルネットワークによる個人の主張をマスメディアが取り上げ、さも社会の総意であるかのように社会を、他の個人を攻撃する。社会は個人を攻撃する個人の集合体となった。誰もが声を出せる時代に声を出さない個人は社会から見失われた存在になる。その一つにヤングケアラーが挙げられる。本

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

来大人が担う家事や家族の世話をしている十八歳未満の子供達である。

　家族への無条件の愛で慈しみ合い、敬い助け合う価値観は家庭内で育まれ日本社会を支えてきた。ここに社会は介入し得ない。近年二度にわたり改正をしている社会福祉法により地域で包括的な支援を試みても、ヤングケアラーは児童福祉の仕組みから零れている。しかも、ヤングケアラーだった人々の回顧手記を読むと、彼らは社会に救いを求めておらず、自らの独立自尊によりケア生活を昇華していったことが分かる。ヤングケアラーは二重の意味で社会から救われていないのである。

　個人を救わない社会は悪とされ、社会は孤立する個人を救おうと必死であるが、そこにあるのは緊張関係ではなく社会の焦燥感だ。しかし、私は、自らが自らを頼ることで尊厳を保つことができる個人を育むことが正義になると考える。そのようにすれば、社会の一員であるはずの自らが失われた一匹になった時にも、保たれた尊厳によって自己が自身を救えるはずだ。

(1027字)

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案例②を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見（主張）	設問と意見との関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター5

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことを元に、さらにブラッシュアップするための
おすすめの書籍情報を知り、その書籍の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。